別紙2

共通基盤の構築と一体的に進める
重点プロジェクト6

１．いつでも、どこでも、だれでも、その場で必要な情報にアクセスできる社会の実現
～自律移動支援プロジェクトの推進～

ICタグなどのユビキタス情報基盤を整備することにより、「移動経路」「交通手段」「目的地」「観光情報」「周辺施設情報」など、あらゆる場面においてその場で必要な情報につき、「いつでも、どこでも、だれでも」アクセスできるユビキタスな環境を構築する。これにより、誰もが持てる力を発揮し、支え合ってつくる「ユニバーサル社会」を実現させる。

施策のイメージ

情報提供

身体的特徴にあわせて移動経路等の情報を提供

店舗情報
地域情報

観光

2. 防災先進社会の構築

ICT技術を利活用し、災害の高精度予測や常時監視、迅速な対応を可能とするとともに、防災・災害情報を、分かりやすく一元的に国民に提供する体制を確立し、災害への備えが万全な防災先進社会を構築。

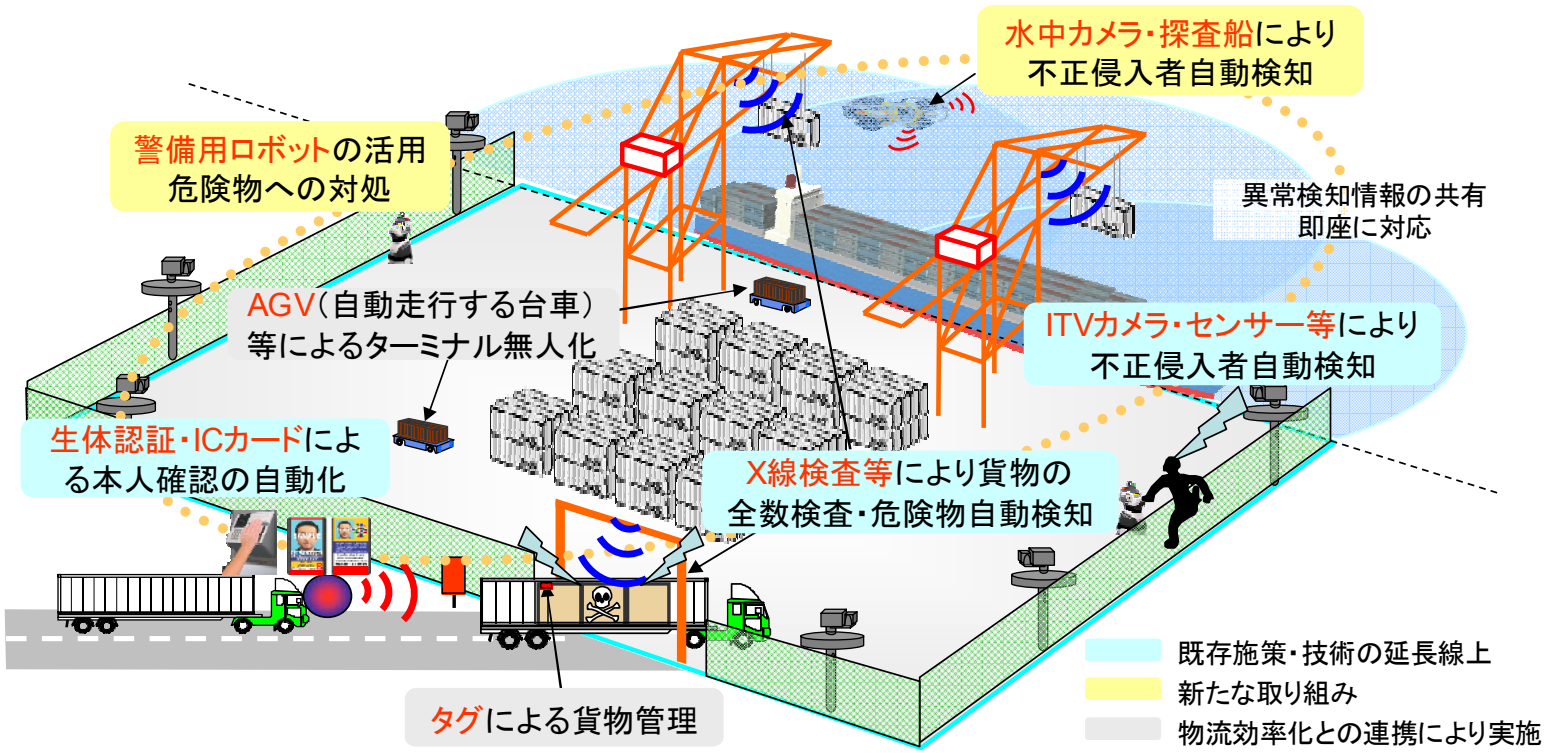
施策のイメージ

携帯電話で道路情報板の内容が閲覧可能に

３．テロ対策技術の高度化による安全の確保

高度な認証技術や自動検知システム、ICタグやセンサーなどを、鉄道駅、港湾、空港などそれぞれの施設環境に合わせて活用することにより、保安体制を強化し、テロを未然に防止する。

港湾施設における保安体制の高度化 （イメージ）

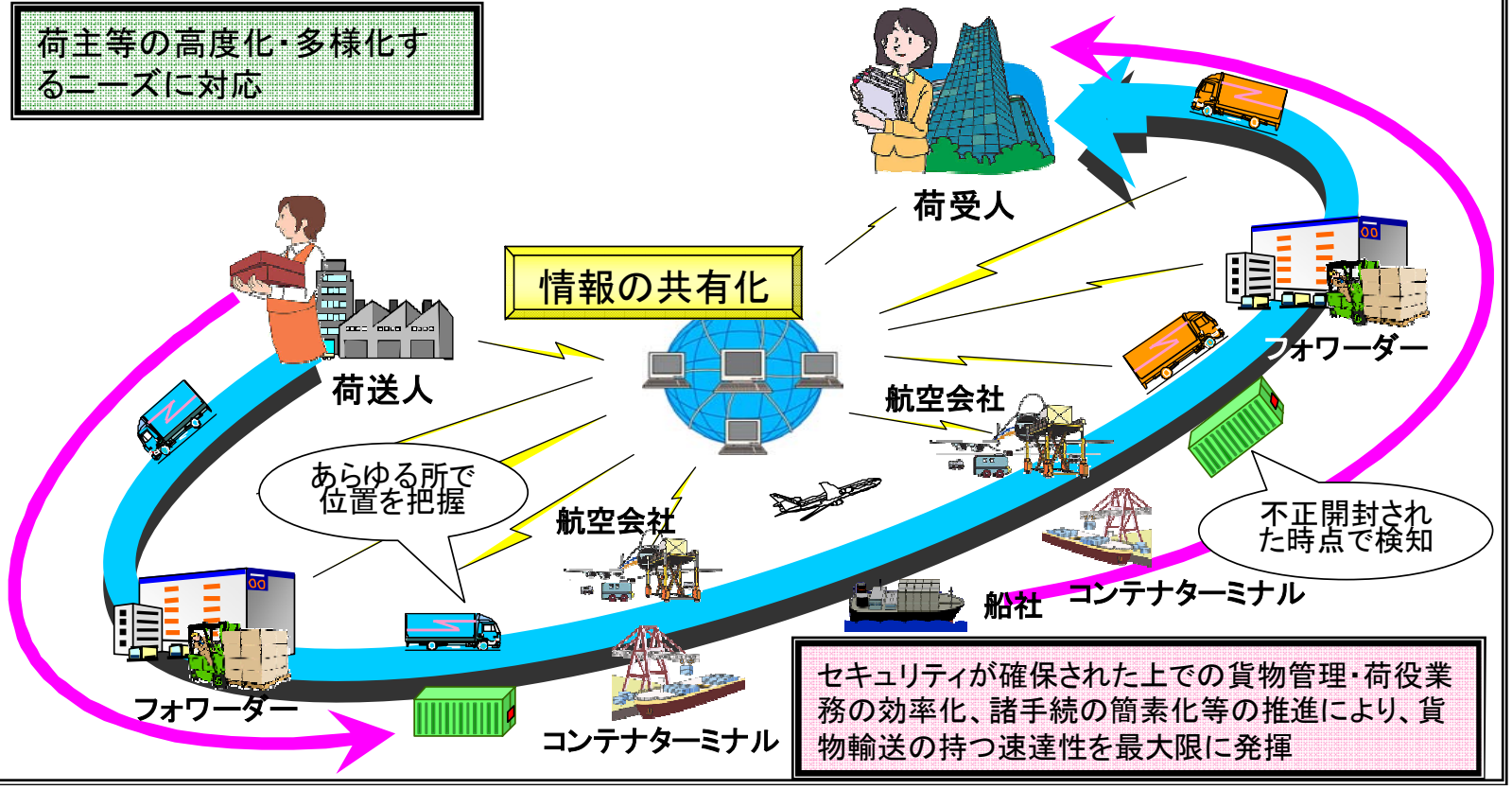


４．物流サプライチェーン全体の効率化・安全性向上

電子タグや電子シールなどのICT技術を活用することにより、貨物の中身や位置に関する情報のリアルタイムな把握、物流手続の効率化、セキュリティの向上が可能となり、荷主や消費者の高度化・多様化するニーズや高まるセキュリティへの要請に対応した物流サービスの提供を可能とする。

施策のイメージ

荷主等の高度化・多様化するニーズに対応



セキュリティが確保された上での貨物管理・荷役業務の効率化、諸手続の簡素化等の推進により、貨物輸送の持つ速達性を最大限に発揮

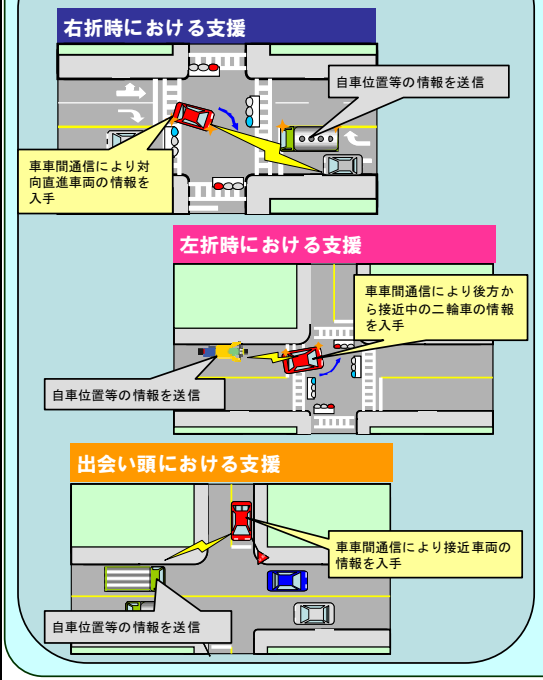
5. ITSを活用した世界一安全な道路交通の実現

路車間通信、車車間通信、車両単独(自律検知型)、地図情報との連携等による安全運転支援技術の開発・実用化・普及を促進し、これら技術が協調することにより、世界一安全な道路交通社会を実現

施策のイメージ

インフラ協調による安全運転支援システム

【車車間通信】



【路車間通信】

その他の安全運転支援

【車両単独(自律検知型)】

○衝突被害軽減ブレーキ

【地図情報との連携】

○カーブ進入速度注意喚起

○事故多発箇所情報提供

※自車の位置と速度から表示を判断

６．東アジア共通ＩＣ乗車券の実現に向けた取組み

東アジアにおける共通IC乗車券の導入を推進することにより、域内において一枚のIC乗車券で公共交通機関の利用が可能となる。これにより、東アジア域内における移動の円滑化、人的交流の促進が図られる。

施策のイメージ